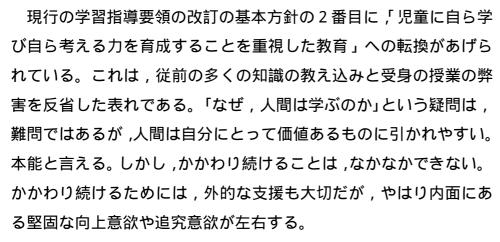


学びをおこす授業づくり 2

2004.9月

「自ら学ぶ」営み



学習対象と出会った子どもたちの内面に、「どうして?」「えっ本当?」「早くしたいな。」など、問題意識や憧れを湧き起こさせたい。これらが、「なぜ調べるのか why 」「何を調べるのか what」「いかに調べるのか How」という追究のきっかけや見通しを子どもの側に生起することになる。つまり、子どもにとって、学ぶ意味である学びの必要感・必然性が獲得される。

かかわり合い感を増強させる

さらに,この学びの必要感・必然性を追究のエネルギーにし,子 どもたちは自分の身の回りの人・モノ・コトに繰り返しかかわった り,事象中の人間や学習仲間との対話をしたりして,新しい価値や 多様な価値の獲得・更新をする。このような価値の獲得や更新を経 ながら,学習対象の事実や意味をつかむ過程をかかわり合いととら えた。かかわり合いが豊かであればあるほど,問題解決や課題達成 に対する満足感や成就感などの学びの喜びは増強されると考える。

「商店街の人にインタビュー」「勉強の内容を大勢の前で発表」など,人とのコミュニケーションが求められる勉強を苦手にし,インターネットで調べる勉強を好む傾向が浮き彫りなった(「餠圏」学校5・6年生1200人 ベネッセ調べ」8月10時動館)ことを考えると,人とのかかわり方が喫緊の課題になっていることもうなずける。今こそ,人間と人間とのかかわり感のある学びを誘引したいものである。





「酢で虫が逃げるんだよ」